

2025年1月26日（日）第二礼拝「平安」イザヤ9章6節

今は不安な時代です。不法がはびこり、予測のつかないことが突然起こります。不安な問題が多く起こる中で、私たちは御言葉を信じる信仰によって平安をもつことができます。

第一番目、平和の君です。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。…主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。」（本文6節）この「生まれる」は完了形であり、ひとりのみどりごが、私たちに既に与えられているということです。この方を信じる信仰によって、予測のできないことが起こるような不安な時代にあっても、勝利することができ、罪、呪い、病等の問題も全て解決されます。

この方は、謙遜な姿で来られ、力ある統治者として治めておられるイエス様と、私たちのうちに住まれて助言を与える聖霊様と、私たちを保護し平和を与える永遠の父という三位一体の神様です。神様は私たちを深く愛しておられ、プロポーズをしてくださいます。この方を受け入れる時、私たちは妻(花嫁)として迎えられ、平安が私たちの人生に臨むのです。

第二番目、ヤコブからイスラエルになることです。ヤコブは「奪う者」、イスラエルは「神様と戦う者」という意味です。ヤコブは、兄エサウを騙して長子の権利を奪い、父からの祝福も奪いました。そして、エサウの怒りをかい、叔父ラバンの家に逃げます。そこでラバンの娘ラケルを愛して、七年間ラバンの家に仕えます。しかし、そのラバンに騙されてレアと結婚させられます。結局、ラケルとの結婚のために、もう七年ラバンに仕えることになりました。その後、ヤコブは夜逃げします。ラバンに追跡されましたが、神様の介入により守られました。次に、四百名の軍隊を連れた兄エサウがやって来ました。ヤコブは、先に家族と財産にヤボク川を渡らせ、自分は渡らず、その場にとどまりました。その夜、ヤコブは神様と相撲を取ります。「私を祝福してください。祝福してくださるまで離しません。」というヤコブに、神様は彼のモモのつがいを外されました。そして、彼の名前はヤコブからイスラエルへと変えられました。モモのつがいとは、人の中心（最も頼みとしているもの）ですが、ヤコブはそれをはずされ、弱くされました。神様のために生きるものに変えられたのです。ヤコブは足を引きずりながら、兄エサウの前に七度お辞儀をして出ていきましたが、それを見て、エサウの心から二十年間の憎しみや怒りが溶けていきました。これが神様の力です。

第三番目、イエス様から目を離さないことです。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…」（ヘブル12:2）不安な状況を見るなら、平安を失いますが、イエス様に目をとめるなら、平安が来ます。第二次世界大戦の時、イギリスの国民はヒトラーの攻撃を受けて、混乱と絶望のどん底でした。そのような時、彼らの希望となったのは、ウインストン・チャーチルとウイリアム・テンプル牧師です。二人は常に演説の終わりに、「今こそ、神様を見る時です。全知全能の神様の前でひざまずきましょう。」と話しました。私たちがいかなる時代にあっても、不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君を見続けるなら、揺るがされずに平安が与えられるのです。アーメン！